



おしえて！
があこ先生

考古学者の
「たまごちゃん」

地名と遺跡には、関係があるピヨ？

遺跡名を見ていたら、古そうな地名があったピヨ～
古い地名を付けて、意味があるピヨ？

明治時代以降、村と村との合併によって、多くの古い地名が消滅してしまいましたが、古い地名には、地域の歴史や環境を知るヒントが隠されていることがあるんですよ。



丸隈山古墳の
があこ先生

博多区博多駅南3～6丁目付近に広がる比恵遺跡群は、博多湾に近い微高地という好立地にあり、これまでの発掘調査で、弥生時代以降の重要な遺構・遺物が多く見つかっています。

特に、古墳時代の終わり頃には、整然と立ち並ぶ倉庫群とそれを取り囲む柵列が造営されていたことがわかりました。「^{なつのみやけ}那津官家」(ヤマト政権が地方支配のために全国に整備した領有地(ミヤケ)の一つ)に関連する遺跡として国の史跡にも指定されている、日本史上、重要な遺跡です。



那津官家関連遺構（比恵遺跡群第72次調査）
白い丸が建物の柱穴の痕跡です。

^{ひのたかし}日野尚志氏の研究によると、比恵周辺には、戦前まで「三宅田」「官田」という地名があり、ミヤケに伴う耕作地の名残と考えられています。また、「中津」という字名は、「那津」に由来する可能性があるなど、古い地名を調べることで、比恵周辺の歴史を明らかにする手がかりとなりました。



比恵周辺の旧字名(菅波2020より一部抜粋)

このような事例をみると、時代とともに使用されなくなった古い地名を遺跡名として残していくことは、とても意味のあることではないでしょうか。古い地名を石碑として残している地域もありますので、街を歩いて探してみてくださいね。

【参考文献】日野尚志2005「比恵・那珂遺跡群を中心にして諸問題を考える」『那珂38』福岡市報第842集
菅波正人2020「比恵遺跡群／那珂遺跡群」『新修福岡市史』資料編考古②